

埼玉トヨペット Green Brave



2018 RACE REPORT

【#68 埼玉トヨペット GB GR SPORT マーク X】

2018年6月1日(金)～3日(日)

ピレリスーパー耐久シリーズ2018

第3戦 富士 SUPER TEC 24時間レース

富士スピードウェイ(静岡県小山町)

ポールトゥウィンでマーク X 初優勝を達成

スーパー耐久第3戦(24時間レース)が富士スピードウェイで行われた。ここまで2レースを終え、埼玉トヨペット Green Brave の年間ランキングは4位(トップと25点差)。今回は24時間の長丁場のため、3時間レース時の倍以上のポイントが与えられる。年間チャンピオン争いに加わるまたとない機会だ。予選では練習走行時の勢いを維持し、Aドライバーの服部選手が1分52秒892(2位)、Bドライバーの脇阪選手が1分52秒351(1位)をマーク。両ドライバーの合算タイムは3分45秒243となり、2戦連続の予選1位を獲得した。Cドライバーの平沼選手は1分55秒888で5位、Dドライバーの菅波選手は1分53秒822で1位、マーク X 初優勝の期待が高まる。

土曜日の15時に決勝がスタート。スタートドライバーは服部選手が務める。オープニングラップをトップで終え、順調に周回を重ねる服部選手。16周目にセーフティカー(SC)が導入されるとピットインに入り、番場選手に交代。4位でコースに復帰した番場選手は、ライバルのピットインもあり、55周目にはトップに返り咲く。88周目に菅波選手に交代。2位でコースに復帰したところ、レースはナイトセッションに突入する。

菅波選手は安定した走りでトップを追い、109周目には1位へ。134周目にピットに入り、平沼選手に交代。トップのままコースに復帰した平沼選手の後ろに#62 レクサス RC350 が迫る。平沼選手は懸命にディフェンスし、トップを守り切る。そして167周目にFCY(フルコースイエロー)が導入されると、チームはピットインを判断。今回の特別ルールとして、レース中に2回のメンテナンスタイム(8分間のピットイン)が義務付けられており、このタイミングで1回目をとることに。前後のブレーキローターを交換し、脇阪選手に交代。2位でコースに復帰した脇阪選手は、1回のピットストップを挟んで約3時間のロングスティント。2位走行中の257周目に服部選手に交代すると、261周目にライバルのピットインで1位へ。服部選手も約3時間を走りきり、夜明け前の343周目にピットイン。

その後、菅波選手と番場選手が1時間30分ずつ走行し、トップ走行中の432周目に2回目のFCYが導入されると、チームは2回目のメンテナンスタイムを消化。しかし、フロント左側のブレーキローター交換に手間取り、メンテナンスタイムを約2分オーバーしてしまう。平沼選手に交代し、3位でコースに復帰。平沼選手は必死にプッシュし、2位の#38 レクサス IS350 に迫る。1分40秒ほどあった差を約20秒までに縮め、478周目で脇阪選手に交代。脇阪選手もプッシュし508周目に服部選手に交代すると、510周目にトップを取り返す。その後、菅波選手→番場選手→脇阪選手とバトンをつないでいき、2位に2周差をつけトップをキープ。燃料が足りなくなる恐れがあることから674周目で平沼選手に交代し、688周目に感動のチェッカーを受けた。今回の結果により、チームはランキング2位に浮上。トップとはわずか6点差で、年間チャンピオン獲得も現実味を帯びてきた。

ST-3 クラス決勝結果

1位: 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X(トヨタ マーク X)	688 周
2位: DENSO Le Beausset RC350(レクサス RC350)	686 周
3位: muta Racing ADVICS IS350 TWS(レクサス IS350)	683 周
4位: ADVICS TRACY RC350 TWS(レクサス RC350)	679 周
5位: エヴァ RT2 2号機 岡部自動車 Z34(ニッサン フェアレディ Z)	677 周
6位: MP Racing ワコーズ ED ニルズ(ニッサン フェアレディ Z)	650 周

天候: 晴れ 路面: ドライ ※トップ6まで(8台中)

#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X
(服部尚貴/脇阪薫一/平沼貴之/番場 琢/菅波冬悟)
決勝: 1位(688周、24時間01分23秒538)
予選: 1位(17番グリッド)

VOICE FROM DRIVERS



ライバルが亀の作戦を取ることは予想していたので、ウチはうさぎじゃないけどロバくらいのペースでいきました。長かったようで短かったようで長かったね。でもここは勝つつもりで来ていたので、良かったです。今シーズンもこのままの勢いで行きたいですね。(服部尚貴選手)



ちょっと時間がかかりましたけど、やっと優勝できました。今年になって流れが悪かったのですが、上手くいくときは本当に全てがうまくいくと感じましたね。僕は与えられた仕事をきっちりとしましたが、平沼選手の活躍が著しく、とても良かったです。(脇阪薫一選手)



終わってみればあつという間でした。チェッカー前の走行は冷静に走りました。夜や朝に限らず、与えられた場面でちゃんと走ろうと思ってやっていたので、ペースもそう悪くはなく、良かったです。ここまで来るのに3年かかりましたが、優勝できて良かったです。(平沼貴之選手)



ST-4クラスでチャンピオンを取って以来なので、本当に嬉しいです。すべての流れが我々のチームに向いていると感じましたね。最後までその流れが続いて良かったです。何よりもメカニックが頑張ってくれました。彼らの努力が報われたのではないのでしょうか。(番場 琢選手)



24時間どころか耐久レースも初めての経験でした。先輩ドライバーの皆さんが手厚くサポートしてくれたおかげもあり、最高の結果で終わることができて良かったです。一番きついシーンは日曜日の昼前。暑くて路面状況も悪いなか、走りきれて良かったです。(菅波冬悟選手)

VOICE FROM MECHANIC

ホイールガンを担当しました。普段の現場とは緊張感が異なり、その中にいるだけでも気持ちが引き締まりました。レースでは一切無駄のない動きが求められます。僕も自分の動きにまだまだ無駄があることに気づけたので、いい意味で普段の業務の反省になりました。(北本支店・荻野 洋)

ST-3 クラスポイントランキング

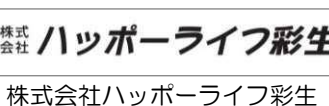
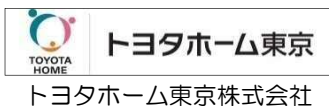
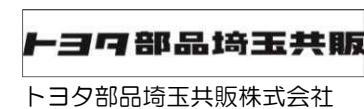
順位	車番	チーム	ポイント
1位	38	TRACYSPORTS	76
2位	68	埼玉トヨペット Green Brave	70
3位	62	Le Beausset Motorsports	68
4位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	54.5
5位	39	TRACYSPORTS	47
6位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	37

第4戦

7月14日(土)・15日(日)
オートポリス(大分県日田市)



埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



※50 音順